

集会宣言

私たちは五月二十九日から三日間、第五四回全国保育問題研究集会を石川で開催し、一〇一二名の仲間が集いました。

この集会在開催された二〇一五年は「子ども・子育て支援新制度」施行元年にあたります。施行後ほぼ二ヶ月が経過した中での今集会では、保育現場をはじめとする様々な場面での状況・問題が出されました。「認定こども園」の返上に見られるような混乱、「地域型保育事業」や保育料、保育の質の問題、この制度が真の待機児対策になっているのか等多くの声が上がっています。今後も「子どもの育ち」にふさわしい保育の場をつくっていくために私たち保問研の活動が必要となっています。

また、今年は戦後七十年、被爆七十年という節目です。ニューヨーク行動にあらわれているように平和と核廃絶が世界の大きな流れとなっていますが、NPT再検討会議は決裂してしまいました。国内では、安倍政権が「海外で戦争する国」づくりのために暴走を続けています。私たちは、この集会で「戦争法案」に反対する緊急アピールを出しました。保問研の諸先輩たちが戦後つくり上げてきた平和憲法のもとでの「保育の蓄積」を受け継ぎ、次世代へつないでいきたいと思えます。

東日本大震災から四年が経過し、ハード面の復興は進んでいるように見えます。しかし、住宅問題など経済的・精神的に不安な日々を過ごしている住民の方々が大勢います。被災地と交流し合い、保問研だからこそできる支援を続けていくことが大切です。

福島の原発事故はいまだ解決策がないまま自然・生活破壊の深刻な状態が続いています。困難な中で「子どもと地域住民の命を守る」保育が実践されています。原発が動いていなくても電力確保には支障がないことが明らかになっています。社会保障には目も向けず、大企業の利益を優先する政治に歯止めをかけ、命を守り育む生活を求めます。

この集会を引き受けた石川保問研では、「小さい種から大きい木へ」をめざして、保育を語り合いながら、知恵と力を出し合い、仲間づくりをすすめてきました。そのことはまさに保問研が大切にしてきた「伝えあい保育」から私たちが学んできたことです。あらためてそのことの大切さを感じることできた集会となりました。

保問研は、保育実践から保育の専門性・可能性を学び積み重ねてきました。困難な時こそ保問研の真価が問われるときです。先輩たちから学び受け継いできた保問研の役割をさらに発展させていくために、私たちがつながり合い、学び続けること、粘り強く運動していくことが不可欠です。今こそ保育のすばらしさと可能性を大きく広げていきましょう。

石川で学び確信した力を全国に広げ、来年の東京へつないでいきましょう。
以上、宣言いたします。

二〇一五年五月三十一日

第五四回全国保育問題研究集会